

ルネサスが  
双葉電子工業に  
選ばれた理由。

【広告】 特集:ハイビジョン並み映像で円滑な会議を TV会議システム/日立ハイテク

【広告】 ビジネスを成功へとつなげるカラープリンタ。キャンペーン実施中！-NEC

【広告】 特集「変化の時代の企業経営、変化に即応できるIT戦略」提供:日立製作所

【広告】 【マルコメ】月次決算処理が30日→5日に！運用コストも20%削減 富士通

ビジネス: ネット時評(日経デジタルコアより) 過去記事

>> 過去記事一覧

## 産学官のサロン設定力(中村 伊知哉)



産学の結節点、スタンフォード大学

サンフランシスコの日曜日。公園はお祭りだ。炎天下、数万人はいる。笑顔。バーベキューの屋台、風船売り、募金集め。厚化粧、コスプレ。素っ裸のおじさんもいる。踊っている。腰を振っている。大音響のテクノ・ミュージックに恍惚となっている。人の渦に巻き込まれ、私にも異様なエネルギーが伝染してくる。

いや、西海岸には祭りに来たわけではない。ここから南へ車で30分、スタンフォード大学への出張をこなしているのだ。日本はまだ梅雨だが、こちらは記録的な灼熱だ。ただっ広くあけすけなキャンパスは既に夏休みに入り、学生の姿はまばら。

しかし、この物静かな時期を待ってましたとばかり研究に打ち込む教授陣は多い。私もウイークデーは、彼らとの打ち合わせに加え、スポンサー企業とのミーティングや、ベンチャーキャピタル、コンサルティング会社との会合などをキャンパスの中でこなして回る。この大学がシリコンバレーの結節点になっていることを体感する。

### 分野横断の国際コミュニティ

私の所属するスタンフォード日本センターは、スタンフォード大学が唯一キャンパス外に持つ研究機関である。いまそこでSPRIEという名の研究プロジェクトが動いている。アントレプレナーシップと地域との関係を調査分析するものだ。スタンフォード大学が90年代シリコンバレー成功の秘訣を多角的に検証した研究がベースとなり、日、中、韓、台湾、シンガポール、インド各国で個別にチーム編成して推進している。

先日、京都で日米チームの会合が持たれた。日本政策投資銀行、経済産業研究所、スタンフォード大学などの関係者が集い、札幌から福岡まで、国内の主要な都市ごとの分析を踏まえ、ベンチャーの動きを議論した。現在とりまとめ段階にあるため、内容は別稿にて報告するが、産官学のコミュニティによる国際研究というスタイルがプロジェクトの原動力となっている。

これも1ヵ月ほど前のことだが、当センターと京都大学との協働で、「環境調和型エネルギーと持続可能な経済発展」と題するワークショップが開かれた。京都大学エネルギー科学研究科が中心となって企画したもので、スタンフォード大学の政治学、物理学の教授や学生、さらに電力、ガス、自動車等の関係企業が参加して活発な討議が行われた。ここでもポイントは、分野横断的なコミュニティというスタイルである。

## 民にシフトする場の設定力

この1ヵ月だけでも、このような会合に数多く出席した。六本木ヒルズでは、「インターユニバーシティ・コロキウム」と称する日米欧の大学共同体が発足し、その設立総会が開かれた。私は執行幹事として参加したのだが、米倉誠一郎一橋大学教授の進行のもと、北川正恭前三重県知事、鈴木寛参議院議員とともに開いたパネルディスカッションでは、そうした「知の融合するサロン」を持つことの重要性が議論となった。

大阪では、「e-Kansai戦略」円卓会議というシンポジウムがあった。内閣府や総務省、経済産業省の政策担当者、日経デジタルコアの坪田代表幹事や本コラム執筆者である今川拓郎大阪大学助教授ら産学官が集っての公開討論である。夕方のパーティーは貴重な交歓の機会であった。

このような場を設定するのは、かつては役所の機能だった。官庁が用意する座敷に集まるパターンが多く、民間もその求心力に期待していた。いや今もなお役所はそうした機能を持ってはいる。事実私はこの1ヵ月間も、京都府のIT戦略や総務省のコンテンツ政策WGを取りまとめるため、役所主導の産学官プラットフォーム運営に汗を流している。

だが、そのような官の機能は明らかに低下した。グラスを傾ける立食のパーティーも、密室で杯を交わす宴会も、官がらみのものはめっきり減った。サロンを設定する力はプライベートセクターに分散した。コミュニティー作りはネット上でも活発に行われるようになった。そして、こうした場を設ける技量が官民間問わず重要なブランド力となっている。お座敷を出す勢いと正統性、座持ちのよさや清潔感が問われるからだ。

サンフランシスコの祭りは、どうも雰囲気は尋常ではない。男のカップルやグループが目立つと思ったら、これはゲイの祭典なのだった。南米系も東洋系も入り混じった数万の同性愛者たちが着飾って、あるいは肉体を誇って、陽気に騒ぐ。

常連とおぼしき参加者は、これぞサンフランシスコだと胸を張る。たしかにこんな場は日本では想定できない。こういう濃密な融合空間を作れるのがアメリカの強みかなと思いつつ、私も少しばかり腰を振ってみた。

### -筆者紹介-

中村 伊知哉(なかむら いちや)  
スタンフォード日本センター研究所長

#### 略歴

1961年生まれ、京都市出身。京都大学経済学部卒。在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターなどを務める。84年郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長を経て、通信政策局でマルチメディア政策、インターネット政策を推進。93年からパリに駐在し、95年に帰国後は官房総務課で規制緩和、省庁再編に従事。98年郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就くとともに渡米、MITメディアラボ客員教授に就任。2002年9月から現職を兼務。経済産業研究所コンサルティングフェロー、(社)音楽制作者連盟顧問、NPO「CANVAS」副理事長を兼務。著書に『インターネット、自由を我等に』(アスキー出版局)、『デジタルのおもちゃ箱』(NTT出版)など。

